

## 第40回学校評議員会 会議録

平成30年7月17日(火) 14:00~15:45

弘前高校応接室

出席者 学校評議員 4名  
学校側 校長、事務長、教務主任(司会)  
進路指導主任、生徒指導主任、教務部員(記録)

欠席者 学校評議員 1名  
学校側 教頭

### 1 校長挨拶

校長 : 学校評議員会は、評議員の皆さんから学校運営の意向を聞き、それを反映させ、さらに学校運営の状況をお知らせし、説明責任を果たすこと目的として実施している。学校経営方針などについて説明があるが、忌憚のないご意見をいただきたい。

### 2 校内一巡

校内一巡(ねぶた制作見学)

### 3 意見交換

校長 : ○学校経営方針について

- ・目指す人間像「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」と、教育目標の3点「(1) 自学自習(2) 規律ある自由(3) 体力の増進」については昭和46年に当時の小田桐校長が示したものであり、長い間変わっていない。(1)は自ら進んで学ぶ姿勢を身に付け、主体的に学ぶ姿勢を身に付けること。(2)は集団における役割の自覚と責任を体得し、自立した人間を目指すこと。(3)は文武両道を目指し、困難に立ち向かう気概を養うこと。今の子どもたちは(3)において、困難に立ち向かう傾向が少なくなり、難しいことにどんどん取り組む姿勢を作っていないので、特に重視するところである。
- ・重点目標は4つ上げている。「確かな学力の育成」「豊かな人間性と社会性の育成」「キャリア教育の推進」「重点校としての任務の遂行」の4つである。
- ・「確かな学力の育成」に関しては、具体的方策アにある「授業第一主義」と、次期学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」が基本になる。「授業第一主義」とは講習などに頼らず、授業内で完結させること、と考えている。そのうえで、方策ウ「主体的に学び、深く考える授業を展開し、論理的思考力・応用力を育成する」ことを目指す。方策エ「生徒理解に努め、生徒との信頼関係の醸成を図る」では、生徒の良いところを見つけ、褒めることを先生方をお願いした。
- ・「豊かな人間性と社会性の育成」に関しては、方策アとイが基本となる。アの自主自

律は規律ある自由と通じるところがある。イは体力の増進とつながる。そのうえで、ウにおいて、互いに励ましあう集団作りをしていく。エにおいて、世界に羽ばたく人材となるために、自国の文化を尊重し理解する姿勢を作っていくことを目指す。オにおいて、強さと同時に優しさや思いやりの気持ちを持ってもらう。

- ・「キャリア教育の推進」に関しては、方策ウとエが基本となる。ウは志望校と自分が将来やりたいこととのマッチングを図る。エは一度決めたら最後まで立ち向かう気概をもってもらおう。そのうえで、方策イにあるように、どのように社会に貢献していくかを考えさせる姿勢を作る。
- ・「重点校としての任務の遂行」に関しては、今年度から5年間重点校としての役割を担うために、今まで行ってきた事業を引き続き行っていく。
- ・教育目標実践のために、生徒には、「凡事徹底」「失敗を恐れない」「思いやりの気持ちを持つ」の3つを学校生活で実践してもらいたいと始業式で話をした。

教務部 : ○平成29年度学校評価結果報告書について

- ・「確かな学力の育成」の項目では、先生方の自己研鑽が必要。
- ・「キャリア教育の推進」「重点校としての基盤整備」では教員側の押し付けにならないように、生徒・保護者との情報共有をする。また、生徒の安全・安心のための対策をしていく。

教務部 : ○重点努力目標事項とその取り組みについて

- ・1-（1）の学年教務との連携強化を密にし、目線を合わせて事業を進めていく。
- ・1-（2）は経営方針を踏まえ、その実現に向けて教務部でできる工夫をする。
- ・2-（1）は初めて1学年の初期指導を実施した。受け身の生徒が多くなってきていることや、中学から高校の生活へとスムーズに移行できるよう実施した。この指導による生徒の変化や影響・成果は目に見えないかもしれないが、生徒の変化に教員も対応する必要性があることから実施を開始した。
- ・2-（2）は、地域とのかかわりの重要性から実施した地域フィールドワークは2年目となった。地域貢献まではまだ達していない。
- ・6-（1）選抜業務はミスが許されないので連絡調整を適切に行っていく。
- ・7の学校評価については対応できる場所はすぐに対応していきたい。
- ・8の学校内の情報機器の充実を図っていく。

生徒指導部 : ○重点努力目標事項とその取り組みについて

- ・1の安全教育、中でも交通指導は重要視している。昨年は自転車がかからむ交通事故が多かったが、今年は今のところなし。全校集会での指導の成果かわからないが、良い傾向だ。
- ・2の基本的な生活態度の確立は社会に出るために重要視している。特に挨拶に関しては適宜指導をしている。
- ・3の自治会活動や部活動の活性化と4の諸行事の円滑実施は、人間性をはぐくむために弘高祭など行事の中で行っている。部活動で心身のたくましさをはぐくんでいる。
- ・5は、年3回の安全点検で不良箇所がないか確認してもらっている。

- ・ 6は、容儀・スマートフォンの使用を重視している。今年度は、情報モラル教室を警察署から講師を招いて実施した。スマートフォンの使用については場所やマナーを考えて良識を持って使用するよう、学年や担任に協力を仰ぎながら指導しているが、他校と違い禁止の規定がないため、指導が難しい。これからは指導の工夫が必要となる。
  - ・ 今年度は SNS のトラブルが 2 件発生した。
  - ・ いじめアンケートは年に 3 回実施をしている。先日の第 1 回いじめアンケートでは案件はなかった、今後は学年、担任の先生を中心に注視していく。
- 高校総体上位入賞者、全国大会出場者について
- ・ 今年は数が少ないが、テニス部女子が団体初優勝を果たした。

進路指導部 : ○重点努力目標事項とその取り組みについて

- ・ 1－（１）に関して、今年度の進路講話は国立がん研究センターの松村氏に講師としてお話を頂いた。難しい内容であったが生徒からの質問が多かった。医学ゼミナールは弘前大学の若林氏に講演を頂いた。9月7日は出前講義を行う予定。
  - ・ 1－（３）に関して、3年校内模試は昨年度以上に作題において担当学年を越えて先生方が情報共有しながら、作題者自身の自己研鑽に励んでいる。
  - ・ 2－（１）は、参加した先生に報告書を書いてもらい、職員会議などで報告をし、情報共有を図っていく。
  - ・ 2－（２）の生徒の表現力育成については、医学ゼミナールなどでアウトプットの機会を設けて、表現力を育てる指導を行っていく。
  - ・ 2－（３）について、他校の先生との情報交換を行いながら学年に伝えている。
  - ・ 3－（１）について、今年度はプレテストもあるので、その問題分析をさらに進めていく。
  - ・ 3－（２）の探究的学習の充実について、1学年はビブリオバトルを先日実施した。自分の興味・関心が将来に活かされるようにしている。
  - ・ 3－（３）は、ねぶた制作を通して、意見交換をしながら自分の考えや行動に人間の成長を見ることができる。
  - ・ 4－（３）は、県内外の学校と情報共有しながら、良いところを参考にする。
  - ・ 生徒にとってこの学校で勉強をして良かったと思えるように、全教員の学びが生徒の学びにつながるように、取組を進めていく。
- 平成30年度入試の進路状況について
- ・ 6クラス編成になり、卒業生の数は減ったが、合格者は多かった。
- 平成30年度4月の進路志望調査について
- ・ どの学年においても東北大学志望者が多い。
  - ・ 医学部医学科志望者はどの学年にも多い。
- 学習状況調査の結果について
- ・ 学年によって違いはあるが、1年から2年、3年と学年が上がるたびに学習時間が増えている。
- 進路行事に関わる年間行事について
- ・ 進路年間行事は、土日に模擬試験など進路行事がある日を色分けしている。

教務部 : 各評議員からご質問やご意見をいただきたいと思います。

校長 : 補足として、今年は8月13日を学校閉鎖日にした。

評議員A氏 : 1コマ何分か。

教務部 : 50分。午前4時間、午後2～3時間。1日で6～7コマある。

評議員A氏 : 土曜日に講習はあるか。

教務部 : 講習はないが、総学などを授業日として充てることがある。

評議員A氏 : 夏期講習・冬期講習は3学年だけか。

教務部 : 全学年行う。時間数は3年生のほうが多い。

校長 : 12月1日にGTECを行う。これは民間試験で、大学入試の新テストの成績に加味される可能性がある。ゆくゆくは、マーク式テストがなくなる可能性があるが、先行きは不透明。

評議員B氏 : 塾に行く生徒が多い印象だが、どのくらいの割合でいるのか。

進路指導部 : 割合までは把握できていないが、1年は高校入試のときに行った塾に行く生徒が多い。2年は部活動などの影響で通う生徒が少なくなるが、3年になると受験を意識してか、また増える。

生徒指導部 : 去年あたりから、新入生のなかに塾で高校数学を学習してから入学する生徒が出てきた。入ってきた時点で学習していない生徒との差があるので、授業での工夫が必要になる。

評議員C氏 : ある准教授の授業で、英語で授業をすることがあったが、やめてほしいという学生がいた。なぜその反応が出てくるのか。それは民間試験があることで改善されるのか。

進路指導部 : 英語での問いかけは昔より多くなっているし、英語の聞き取りに関しては以前から対応できる授業をしている。弘高はさらにそれを深めていくことをしているので、生徒の実力的には英語のみの授業でも十分に対応できると思う。やめてほしいという学生は、気持ちや慣れの面で個人差があるのではないかと思う。

教務部 : 授業によっては、英語でポスターを作り、英語で発表させたりするところもある。発表・聞き取りや質問もうまくできていた。

評議員D氏 : 初期指導について、授業の受け方とはどのようなことを指導したのか。

生徒指導部 : 数学では、普段よりもゆっくり教え、かつ授業でやったことを家でどのように復習する

かなどを解説しながら授業を進めた。

評議員 D 氏 : 予習や復習がうまくいかない生徒のフォローをお願いしたい。初期指導はよいこと。

教務部 : 受け身の姿勢の生徒が多い現状を踏まえ、中学と高校の授業のギャップを埋めるために、高校の授業についていけなくなる生徒を減らしていきたいと考えている。

評議員 A 氏 : 学校はスマートフォンの使用は OK なのか。

生徒指導部 : 禁止にしていない。良識を持って使用させるために、持ってくるかどうかなどは生徒に一任させている。SNS のトラブルなどもあるので、本当に生徒任せにしてよいかどうかはこの先考えていかなければならない。

評議員 B 氏 : 使い方によっては学習にも応用できるので、無理に禁止にしなくてもよいと思う。

生徒指導部 : 入学時からトラブルのことも含めて生徒に指導をしている。今のところは大きな問題がないので、禁止にしていない。

評議員 D 氏 : 電子辞書を持ってきている生徒はいるのか。

生徒指導部 : 持ってきている生徒はいるが、英語の授業では、紙の辞書を使って調べる指導をしている。

評議員 A 氏 : 理型と文型の割合はどのくらいか。

進路指導部 : 学年によってばらつきはあるものの、半々くらい。

評議員 A 氏 : クラスは何クラスずつに分かれるのか。

進路指導部 : 3クラス・3クラスである。

評議員 A 氏 : 文理選択は生徒の希望通りになるのか。

教務部 : 生徒の進路志望を踏まえ、教員と生徒との面談を行ったうえで決めている。

校長 : 長時間にわたりありがとうございました。次回の学校評議員会は平成 31 年 2 月 4 日 (月) に行います。次回案件は学校評価についてです。教員の自己評価を行い、それをもとに学校関係者評価も行いたいと思います。